

福井中心市街地の店舗

来客・売り上げ減9割

3割超が資金繰り悪化

福井市の第三セクター「まちづくり福井」が中心市街地の店舗を対象に、

新型コロナウイルスによる影響を調査した。国や県の緊急事態宣言前の調査だが、約九割の店が昨年同時期と比べて来店客数や売りが減少したと答え、感

染拡大による深刻な影響が出ていることがうかがえる。

調査は三月二十三日～四月三日、福井市の中央、大手、順化、手寄の飲食業、服飾・ファッショ雑貨、食料品・日用雑貨など四百十五店を対象に実施し、二割に当たる八十四店から回答を得た。

感染拡大による影響では、91・6%が「悪い影響

がある」と回答。昨年と同時期と比べて売り上げが減少したと回答した店のうち、「41～60%減」が最多

の47・5%、「21～40%減」が24・6%、「61～80%減」が11・5%だった。発生している経営上の影響を複数回答してもらったところ、「売り上げ減少」が87・7%、「キャンセルの発生」と「団体予約の減少」がともに47・9%。

「資金繰りの悪化」は32・9%だった。売り上げや来店客が減る中で店を続けるための要望としては、固定資産税の減税や消費税の廃止・免除、家賃補助などを求める意見が多かった。

まちづくり福井は、密閉、密集、密接の「三密」を避ける行動が当面求められていることから、ゴールデンウィーク商戦も期待できないと指摘。感染症の終息が見通せず売り上げの回復が望めない現状がさらに続いた場合、「これまでにない数の事業所が廃業せざるを得ない可能性も否定できない」と分析している。

まちづくり福井はホームページで、中心市街地の事業者に特に関連すると思われる支援施策を紹介している。
(鈴木啓太)